

高校生のボク達が実施する モラル出前講座

— 小中学生から教育委員会・PTA 研修ファシリテーション・アクティブラーニングまで —

羽衣学園中学校・高等学校 教諭 米田 謙三

キーワード：モラル学習，アクティブラーニング，外部連携

1. 従来の課題・目的

羽衣学園高校(大阪)では、2011年から多くの企業や省庁の協力を得て、インターネットの安心・安全な利用促進のための啓発講座を行ってきた。

スマートフォンの普及、Wi-Fi 環境やインターネット環境の整備に伴い、いつでもどこでも誰でもインターネットに接続出来るようになりました。また、パソコンだけでなく携帯電話、スマートフォン、ゲーム機、音楽プレイヤー、タブレット型端末の普及に伴い、子どもたちにとってインターネットはより身近になって来ています。今後さらに高度情報通信ネットワーク社会が進んでいく中で、子どもたちは様々な端末やインターネットを活用し、情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身に付けることが重要となっています。しかし、インターネット上で様々な情報が得られる一方で、「情報モラル」の欠如により、権利侵害・犯罪の助長・健全な青少年育成の阻害等、新たな社会問題に繋がっていることも事実です。子どもたちが「情報活用能力」と「情報モラル」を両論から学ぶための一つとして、リアル出前講座（講義型またはファシリテート型）を高校生自身が実施し、保護者（大人）や小中学生とインターネットの利活用について主体的に議論を交わすことによって高校生自身もさらに自ら考えて使用・行動出来るようになることを目的とした。

2. 目標

2.1 概要

羽衣学園高校生 ICT カンファレンスチームを発足、高1から高3で30名、この6年間ほどボランティアでモラル啓発活動を実施していましたが、正式に高校生 ICT カンファレンスチームメンバーという形で独立して活動を実施することになりました。（大学生OB、OGも数名います。）リアル出前講座（講義型またはファシリテート型）を高校生自身が実施し、保護者（大人）や小中学生とインターネットの利活用について主体的に議論を交わす場を提供しました。講演資料として具体的に講義用の教材ファイル、教材動画、ファシリテーターマニュアルを作成しました。

2.2 実施内容

『ネットを使うときに伝えたいこと』を基本として次の5点に気をつけることが大切であると設定し、講義やワークショップで伝えました。（参考資料 ネット社会の歩き方など）

1) 「ネットの仕組みと怖さ」ネットは世界中につながっていて、一度発信すればそれは世界に発信する

のと同じで、危険な事もたくさんある。2) 「個人情報の大切さ」個人情報の具体例を知ってもらう。3) 「思いやり」ネットを使う上で、相手の顔が見えない分、より思いやりの気持ちを大切に、ルールを自分で決めてそれを守ることも大切である。4) 「依存」依存していることに気づくことも大切である。5) 「フィルタリング」段階的にかけることが出来て、コミュニケーションアプリを使えることはできるが、有害なサイトはブロックしてくれるものもあるということ。

3. 実践実績（2016年）

- 2月 啓発動画を ニコニコ動画で発信
- 2月 校内で本校中学生対象 ネット依存といじめについて講演
- 3月 高校生 ICT カンファレンス（東京文部科学省フォーラム）事例発表
- 3月 大阪府熊取市内中学校生徒対象 PTA・教員対象 出前講座
- 3月 大阪府四条畷市教育委員会対象 出前講座
- 6月 東京と大阪 2地域 New Education Expo で高校生が自ら事例発表
- 8月 大阪府泉大津市サミットにて生徒がコーディネート実施 対象：地域の小中学生 高校生 ICT カンファレンス参加
- 11月 ぼくらのTwitter 東京ワークショップ招待参加
- 12月 大阪府スマホサミット参加・発表、NHK いじめをノックアウト取材放映

3.3 実践の特徴

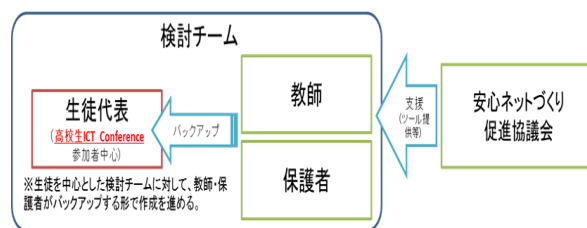


図1 立ち上げ時の体制

ソーシャルメディアの利用は、教員よりも生徒側が先行する場合が多いだけに、教員がソーシャルメディアを利用するかどうか、詳しいかどうかに関係なく、生徒に対して、学校全体でガイドラインに沿った注意喚起を行う必要があるため、まず高校生が主体となってソーシャルメディアガイドラインを作成しました。（A4で4枚、ホームページでも公開、文部科学省の

サイトでも紹介) そのガイドラインをもとに実際にワークショップや出前授業を実施して内容を広めて行くという目標を昨年決めてその目標を実行しました。実施させていただいた会場では大変好評で 生徒向けに実施した内容を P T A 向けに実施要請をいただいた地域もあります。(参考資料 ネット社会の歩き方など)



写真1 泉大津市サミットで コーディネーター

4. 成果 生徒のまとめ

高校生 ICT カンファレンスは、現代のネット社会について私たち高校生が議論を重ね、より良いネット社会を築くための提案をする活動です。企業の方や多くの方と連携をさせていただきアプリの開発、メディアカルタなども一緒に企画して商品化などさせていただきました。新聞や NHK の番組にも少し紹介もいただきました。参加メンバーは、自分たち自身もネット社会の危険性を実感し、それとともにその危険性を知ることによって快適にインターネットを利用できるということも学びました。また、私たちがいろいろと調査した結果としてインターネットのトラブルが増えている原因として悪質なものがたくさんありますが、それらを避けるために最良な方法は、利用者である私たちが、ネット社会を理解するということが大切だということがわかりました。最近のネット使用者はマナーに欠けた行動が多々あるように思われます。また、しなければならないことを実行しない人たちも多いように思います。例えば、インターネットの巨大さに気づかず軽率な行動をとってしまう、アプリをインストールする際に出てくる利用規約を読まないなどです。これらは私たちが日常から危機感を持っていないから生じてくる問題です。私たちはこのような問題を解決するために、「誰に」「何を」「どのように伝えるか」ということが大切で、高校生である私たちが意見を出し合い、学び合うことが、これからのネット社会を作るうえで大切なことだと思いました。その一歩として昨年先輩方を中心に作成いただいたソーシャルメディアガイドラインから今度は実際に私たちが出前講義をさせていただくということでプレゼンテーションファイルや動画ファイルを作りました。(新聞でもとりあげていただいたり、優秀事例賞もいただきました。) インターネットやスマホ(携帯電話)については、既に高いリテラシーを獲得している生徒もいる一方で未だスマホを所持していない生徒も共に議論に参加することにより、それぞれの立場から共通の問題点や課題、将来性を検討したことで双方の生徒が新しい気づきを得、今後こ

の問題についてより深い思慮が得られるきっかけとなったと考えます。小中生は本当に熱心に私たちの話を聞いてくれました。ディスカッションではたくさん意見を出してくれました。P T A など大人の皆さんも知らない世界ですがいろいろと質問もしていただきました。本当にやりがいも感じる事ができました。



写真2 内閣府での提言

5. 今後の課題

スマートフォンが普及すればするほどインターネットも発達していきます。インターネットが快適になっていく裏でトラブルの数も増えていきます。私たち利用者は、インターネットを使う際に危険性についても必ず考えなければなりません。インターネットは便利なものですが一歩使い道を間違えることによって、取り返しのつかないものにも成りえます。そのことをしっかり理解し、常に危機感を持っていれば、私たちはインターネットをより安全に、より快適に利用することができます。そのために気をつけてほしいポイントを私たちはプレゼンテーションファイルで作成しました。今後もいろいろなところでワークショップや講義をして行きたいと思います。また高校生 ICT カンファレンスなど高校生同士の意見交換ができるイベントに参加して他校の高校生や行政の方、事業者の方、保護者・教員の方との意見交換をしてさらに新しい問題点や解決方法を探っていきたいと考えています。

今年は特にフィルタリングに焦点をあてて 企業の方と勉強会を開催したり、講演に来ていただき、高校生が考える対策などを考え、フィルタリング加入率を増やそうという計画をたてています。



写真3 四條畷市教育委員会で講演会



写真4 研修会参加

参考 高校生 I C T カンファレンス
<http://www.good-net.jp/ict-conference/2016/>